

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ソラリス オルクス	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	飼い猫
オプション	キュマイラ	年齢	44	性別	男
覚醒	探求	衝動	妄想	初期侵食率	28 %
出自	貧乏	経験	親友の死	邂逅	忘れ形見

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	5	0	0			5	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	3	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド	白兵	1r	12	0		体内に埋め込まれている。(相当品)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
音駒夫妻	P 友情	N 悔悟			
生体実験研究者	P 有為	N 不快感			
部下	P 庇護	N 嫉妬			
グレイファントム	P 有為	N 脅威			
音駒真白	P 遺志	N 不安			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	16	残り財産P:	1		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
妖精の手	1	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果: ダイス目一つを10に。LV回								
イージスの盾	2	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果: ガード値+ (LV) D								
軍神の守り	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 行動消費なしでカバーリング								
絶対の恐怖	1	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃+lv 装甲無視								
領域調整	2	2	メ/リ	-	-	-	-	
効果: ダイス+lv								
コンセントレイト・オルクス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV								
要の陣形	1	3	メジャー	-	3体	-	-	
効果: 対象を3体に。シナリオLV回								
声なき声	★	-	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果: テレパシー。相手の意志も。								
眠れる遺伝子	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 常に猫の姿。								
猫の道	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 近道を作る。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

『—この体が動く限り、私が君を守ろう』

白い猫の姿をした、UGN支部長、その名もシロ。
 彼は10年以上前にオーヴァードとして覚醒した古参と言える存在であり、長く第一線で戦っていた。
 だが、数年前に起きた無差別襲撃事件で彼の友人が標的となった際に暴走。
 首謀者を討ち果たすが友人夫妻は死亡し、自らも生死の境を彷徨うこととなる。

部下や中間の懸命な治療により、彼は一命をとりとめるも、脊髄をはじめ、肉体を大きく損傷、身体を動かすことができなくなってしまふ。
 だが、彼には心残りがあった。友人夫妻の忘れ形見の少女、音駒真白である。
 守れなかった友人のために、自分にできることは何か。
 彼は身体を再び動かすため、体内のレネゲイドウィルスを変質させ、新たなシンドロームを発現させる手術……生体実験の被験者となる。
 生存の保証されない実験の末、彼は新たにソラリス、オルクスのシンドロームを発現。
 だが、その代償としてか、獣の姿から人間に戻ることはできなくなってしまふ。

それでも、彼は「体が動く」ことに安堵した。
 獣の姿であれば、十分に戦闘能力を発揮できるし、欠損を補うにも都合がいい、と。
 大きく削られていた部分には彼は「盾」を埋め込み縫合、神経物質の伝達をソラリスの能力によって補った。
 彼の誓いは一つ。今度こそ、守れなかったものを守り抜くこと。

左目は視力を失っており、水晶の義眼になっている。
 基本的に彼はオルクス能力で周囲の状況を感じ取っているため、目は閉じていることが多い。